

京都の女性連絡会では、全国合同の女声合唱を繋ぎたいと3月からの練習に励んでいます。今年の音楽会は3つあり、それぞれで女声合唱の役割、色合いが違います。音楽会Ⅱでは ♪女 を、Ⅲでは ♪芭蕉布 を演奏します。1つの音楽会で出演と聴くの両方はできません。(ここが例年とは大きく異なります)

どちらを歌うのか？ それとも両方歌ってサブホールで聴くのか？ 各自でご判断ください。

併せて女性の皆さんには青年を支えて加わってほしい演奏があります。

音楽会Ⅱの ♪ほらね 音楽会Ⅲの ♪HEIWAの鐘 がそれです。青年達を優しく包むように歌って頂けませんか？ どちらも300人の舞台を目指します。早めの出演登録をお願いします。

音楽会Ⅱ ♪女

公的なものを信じるという「ふつう」の心理、それに裏切られるという珍しくないケース、「私が愚かだったのですから。」と結ばれます。これは、諦めではない、強烈な抗議なのです。

戦中、戦後通して銀行員として家族の生活を支え、定年まで働き続け、詩作を重ね、生み出された石垣りんさんの言葉。女性だからこそ感じる理不尽や怒りは現在にも通じます。

「女」石垣りん 詩

それでもまだ信じていた。
戦いが終わったあとも。
役所を
公団を
銀行を
私たちの国を。

あくどい家主でも
高利貸でも
詐欺師でも
ない。
おおよけ
というひとつの人格を。

「信じていました」
とひとこといって
立ち上がる。
もういいのです、
私がおろかだったのですから。

音楽会Ⅰの「いと
し子よ」は東京祭
典で歌った曲
(小森香子作詞
原田義雄作曲)
ではありません。

音楽会Ⅲ ♪芭蕉布

“海の青さ” “空の青さ” など沖縄の豊かな自然と沖縄特産の織物、芭蕉布に託してウチナーの心を歌い上げています。♪芭蕉布 が生まれた1965年の沖縄は、米軍の軍事占領下から離脱を望む県民、島ぐるみの祖国復帰闘争の真っただ中でした。

「芭蕉布」吉川安一 作詞

1 海の青さに 空の青
南の風に 緑葉の
芭蕉は情けに 手を招く
常夏の国
我した島沖繩

2 首里の古城の 石だたみ
昔を偲ぶ かたほとり
実れる芭蕉 熟れていた
緑葉の下
我した島沖繩

3 今は昔の首里天じゃなし
唐ヲウーつむぎ はたを織り
上納ささげた 芭蕉布
浅地紺地の
我した島沖繩

連絡先 (問い合わせ先)

京都うたごえ協議会
TEL FAX : 075-811-7851
e-mail :
kyoto2019@kir.jp

井上美子
TEL : 090-3718-1787
e-mail :
honnedeikitai1013yoshiko@ezweb.
ne.jp

okkohayoshiko@olive.plala.or.jp

登録先 : 京都うたごえ協議会